

特集！！ハルちゃんが行く！！

～第10回協働の森フォーラム～

環境保全に熱心に取り組む企業の皆様と市町村及び高知県等が「協働の森パートナーズ協定」を締結し、手入れの行きとどかない森林の再生や地域との交流による地域の活性化に取り組んでいます。

年に1度、パートナーズ企業等の皆さんと一緒に、環境問題について考える協働の森フォーラムを毎年開催しています。今年は8月27日に梶原町で開催され、東京オリンピックに向けて建設される新国立競技場の設計に携わっている建築家の隈研吾氏が基調講演を行いました。



ハルちゃん

協働の森フォーラムのレポート

まずは高知県知事の尾崎正直がパートナーズ企業の皆様に日頃の環境活動・ご協力への感謝状を贈呈しました。



次に隈研吾氏の基調講演です。立ち見の来場者も大勢出るほどの盛況ぶりで隈氏への注目度の高さを表していました。

隈氏はアメリカのコロンビア大学で研究をしていた頃、高知の知人に梶原のことを聞いたのが、梶原町を知ったきっかけだそうです。1990年代の終わりに梶原町に初めて来て、県内唯一の木造の芝居小屋である「ゆすはら座」（次ページの写真）が壊されてしまう危機を知り、存続に向けて協力したことで梶原町との繋がりが生まれるとともに、木造建築に感銘を受け、その後の隈氏の設計に大きな影響を与えることとなりました。梶原町は隈氏の木造建

築の原点なのです。当時関わった栲原町の方々のことも鮮明に覚えているそうです。この講演を聞いた町民の方々は誇らしい気持ちになったに違いありません。

国立競技場の設計についても触れ、これからは昔の技術と今の技術のハイブリッドの時代であり、緑のネットワークの一部になるのが建築であるという考えや、東京オリンピック後も建物の周りを近隣住民が利用する公園のような場所にしたいということも話していました。



ゆすはら座



講演の後、パートナーズ協定企業の矢崎総業（株）代表取締役会長 矢崎裕彦氏、ニッポン高度紙工業（株）総務課長代理 関誠一氏、四万十町森林組合森林整備部長 小野川拓治氏、宮城県諸塚村企画課長兼地方創生担当課長 矢房孝広氏、栲原町長 矢野富夫氏、高知県知事尾崎正直によるパネルディスカッションが行われ、各社や行政の取組みや今後について議論が交わされました。



外では地元の飲食店のブースが並び、訪れた方たちは栲原町の食を楽しんでいました。
奥には隈研吾氏が設計した役場が見えます。

飲食ブースだけでなく、会場では紙すき体験やキムチづくり体験教室、木のスプーンづくりなど、体験型のイベントブースもあり、賑わっていました。

